

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400087		
法人名	医療法人宏友会		
事業所名	グループホーム太田		
所在地	愛知県半田市乙川太田町1-7-1		
自己評価作成日	2020年 10月 17日	評価結果市町村受理日	令和3年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム太田では地域への関わり、行事への参加を積極的に行っています。春は花見・春祭り・運動会 夏には盆踊りと季節の行事が続きます。又グループホームの周りには大きな公園があり散歩コースとして最適となっています。のんびり歩きながらのおしゃべりを楽しんで頂けます 併設しています小規模多機能ホームとも交流も活発に行っており 毎日穏やかでゆったりした時間が流れています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2392400087-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、小規模多機能型事業所と併設しており、職員についても両事業所を兼務する職員体制がとられていることで、事業所間で連携した利用者の支援にもつながっている。グループホームで生活している利用者の中には、小規模多機能から生活場所を移行した方もあり、同じ職員による支援が継続されていることで、円滑な生活場所の移行にもつながっている。地域の方との交流については、今年度は感染症問題があることで、地域の行事が中止になる等の影響が出ているが、例年は、ホームから地域の行事に参加したり、ボランティアの方がホームに訪問する等、相互に交流する機会がとられている。また、運営母体が医療機関でもあることで医療面での支援も行われているが、近隣にある医療機関との連携も行われており、利用者の健康状態等に合わせた柔軟な支援が行われている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和3年1月17日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の申し送り後に法人理念を職員全員で復唱し理念に沿った介護をすることを目標にしている さらに 地域の方への挨拶も積極的に行うよう心掛けている	運営法人の基本理念でもある「職員心得三カ条」をホームの支援の基本に考えており、ホーム内の見えやすい場所に理念の掲示が行われている。職員間で理念の唱和を行い、日常的な振り返りにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	隣組の一員として防災やお祭りなど地域の取り組み等に協賛、寄付も行っている。又行事にできる限り参加し(盆踊り・花の塔・小学生の来訪や運動会)交流を図ってきたが今年度はコロナ禍で交流がはかされていない	今年度は感染症問題があることで、地域の方との交流が困難になっているが、例年は、地域で行われている行事に参加したり、地域の小学校との交流の機会がつけられている。また、ボランティアの方の訪問も行われている。	地域の方との交流が中断している状況が続いていることもあるため、感染症問題が落ち着いた際には、地域の方との交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知に関連しての色々な病気等についての勉強会を運営推進会議で行っている。又地域の方よりの相談等で認知症の方への理解と施設へのご利用に繋がっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用状況・活動状況を報告し、情報の交換を行っている。又、意見等、貴重な声を生かせるよう努めている。会議で話す内容はミーティングでも話合うようにしている(今年度においてはコロナ禍で開催中止が続いている)	今年度の会議については、書面による実施となっているが、会議を開催する際には、家族や市担当部署の職員が参加しており、定期的な情報交換等が行われている。また、会議を通じて勉強会を行う機会もつくり、ホームへの理解につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	(1)運営推進会議への参加依頼 (2)在宅ケア推進地域連絡協議会への積極的参加(3)シームレスケア連携会への参加(今年度においてはコロナ禍で参加依頼、参加を見送っている)	市担当部署とは、毎月のホームの運営状況に関する報告が行われており、定期的な情報交換が行われている。また、小規模多機能事業所を併設していることで、地域包括支援センターとの情報交換も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関しては事あるごとに勉強会をしている 但し危険行為がある場合は家族に了解をえて拘束をする場合もある)尚、太田玄関はオートロックです	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者の状況等に合わせて外に移動する等、職員間で連携した見守りが行われている。また、運営法人を通じた専門の委員会や定期的な職員研修も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	今年度は介護職員による言葉の暴力～言葉使いのマネジメントの必要性について勉強しマニュアル作成をしマネジメントが実行出来るようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度については学んでいる。が今は対象者がいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書・契約書での十分な説明・理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議等での家族のアンケートや、直接口頭での相談・苦情・要望等をミーティング・朝の申し送りで職員全員で共有しその都度改善してきている	現状、家族との交流が困難になっているが、例年は、行事等を通じた家族との交流が行われている。家族からの要望等には、内容にも合わせて管理者と計画作成担当者で対応している。また、2か月毎の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回の代表者会議・ミーティングでの職員からの意見・提案を職員全員で協議し、改善に向け努力している（個人面談等での意見等） 又、年1回の自己評価及び外部評価を行っている	毎月の職員会議や日常的な職員間での意見交換が行われており、管理者が把握した職員からの意見等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。また、年2回の管理者による職員面談も行いながら、一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回各自目標を立てどう実行するか、具体的に挙げている 定期的に代表者が現場を訪れ職員の様子・職場環境等を聞き取りし、改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年6回法人内の研修があり その他、法人外の勉強会の機会もありなるべく多くの人に参加出来るよう推進しているが 様々な理由で参加出来ないスタッフが多くいる(今年度はコロナ禍で開催中止)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	年6回の法人内外での研修の場や在宅ケア推進地域連絡協議会・シームレスケア連携会等に積極的に参加を促している (今年度はコロナ禍で積極的な参加は出来ていない)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	お話を聞きながら 安心して任せて頂けるような関係作り心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族が出来ること・出来ないこと、希望等をお聞きし施設で出来ること・出来ないこと等をお話し安心して生活を送って頂くための関係作り努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様にとって適切なサービスを心がけている又、過剰なサービスにならないよう配慮している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来ることは何なのかを常に考え、日々変わっていく体調に十分考慮しながら、出来ることはご自身で、出来ないところだけのお手伝いを心掛けている またタオルたたみ等をして頂きおおいに助かっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	常に情報は提供させて頂いている 家族も、協力的であり 共に支えていく関係である		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族・友人様の面会、外出等の支援に努めている(今年度はコロナ禍の為面会時間、回数も制限されている)	現状、外部の方との交流が困難になっているが、以前は、併設事業所にホームの利用者の身内の方が利用者として利用する等、お互いに交流する機会にもつながっている。また、家族との外出も行われており、近隣の喫茶店等で一緒過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	お一人お一人の性格・状況を把握し、個性を大切に、周りとの関わりを持って楽しく生活出来るよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、家族との関係性を大切に、相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様のお話をお聞きし希望にそうように努力している	ホームでは、独自に「お気づき板」を活用した取り組みが行われており、職員による利用者に関する気づきや利用者の意向等を共有する取り組みが行われている。また、随時のカンファレンスも行いながら、利用者に関する意向等の検討も行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人・ご家族・友人の方より情報を収集し、これまでの暮らしの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日を通し、微かな変化も見逃さないよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎日の暮らしの中での、起きてくる課題については、本人・家族様と話し合い、現状に即したプランを作成している	介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。また、日常的にも1日1ページの記録用紙も活用しながら記録を残しており、利用者の変化等の把握と定期的なモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の気づき・実践を記録し、職員間での情報を共有し実践できるよう取り組んでいる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	突発的な要望も、柔軟な支援やサービスを組み合わせ対応している(職員・NS等からの情報をもとに、柔軟な対応に取り組んでいる)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域との繋がりを持ち、安全で豊かな暮らしを楽しむことができる支援が出来るよう努めている（今年度はコロナ禍で外出出来ていない）		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	体調不良時には常に家族に連絡し状況をお伝えしている。受診の際にはスタッフが付き添い医師に説明している。定期の診察もあり その都度情報提供はしている	運営母体が医療機関でもあることで、医療面での定期的及び随時の支援が行われている。ホーム近隣にある医療機関とも連携しており、利用者の健康状態等に合わせた支援につなげている。また、看護師による医療面での支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常時看護師と連携し、適切な方法を相談しつつ支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは情報交換等連携には努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医と情報を共有し主治医、NSがご家族への説明を十分に行いご家族の納得の元、意思統一してケアに取り組んでいる	身体状態の重い方もホームでの生活を継続できるように、家族との話し合いを重ねながら意向等に合わせた支援内容の検討が行われている。また、ホームでの生活を継続しながら、医療機関等の次の生活場所への移行支援も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時に備えての応急手当、初期対応は看護師等より指導があり、実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署と共に消防訓練を年2回実施し、避難の手順等を職員が確認している	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。併設事業所と連携しながら訓練を実施しており、例年は、訓練を通じた消防署の協力も得られている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保も行われている。	例年は、地域で行われている防災訓練にホームからも参加する機会がつけられているが、今年度は感染症問題で中止になっている。感染症問題が落ち着いた際には、地域の方との連携が再開されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉のマネジメントを学びマニュアル作成をした 毎月のミーティングではマニュアルに沿う言葉かけを行うよう毎回確認している	運営法人の基本理念でもある「職員心得三カ条」を日常的に職員間で唱和する機会をつくりながら、職員による利用者への対応の意識向上につなげている。また、管理者が気になった際には、注意を促す等の取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定が出来る声かけをするよう心掛けている。 思いや希望が伝えられるような信頼関係を築けるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ケアプランに沿い支援しているが、その日の状態でプランを変更することもある お一人、お一人の希望に沿えるプラン作りを目指したい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自分で選べる方は少なく職員が同じような服装にならないよう配慮している ご本人が満足のいくおしゃれは支援できていないと思われる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事のメニューを毎日お知らせして食事を楽しみにしてもらっている 食後は御盆ふき等手伝ってもらっている	食事については、外部業者から提供を受けているが、利用者の身体状態等に合わせた食事形態については、ホームのキッチンで対応が行われている。季節等に合わせた食事の他にも、おやつ作りや月1回の「太田喫茶」等、利用者の楽しみもつられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の身体状況に応じ、副食刻み・極刻み・ミキサー 主食は普通・軟飯・粥・ミキサー等にし対応し支援している。又栄養バランスに関しては栄養士が管理し水分量に関しては 看護師が中心に管理している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行い、清潔を保って頂くよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	定期的なトイレへの誘導・排泄パターンをお1人お一人把握し、トイレでの排泄や排尿の自立に向けた支援をしている	利用者の排泄記録を残し、日常的に職員間で情報の共有を行いながら、一人ひとりに合わせた排泄支援に取り組んでいる。トイレでの排泄を基本に、排泄に関する医療面での連携も行き、利用者の排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	職員全体で排便の有無を確認しあっている。看護師を中心に一人一人の体質に合わせて自然排便できるよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴日は個々のケアプランによって異なります。但しお一人お一人の体調に合わせての入浴もしている	入浴支援については、併設事業所の職員とも連携しながら行われており、利用者が週3回の入浴ができるように支援が行われている。入浴の際には、複数の職員の配置が行われていることで、身体状態が重い方も浴槽に入る取り組みが行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調に合わせての休息であったり夜間は室温管理照明等で安眠出来るよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の薬情について職員全体で把握するよう努めている。病状の変化等については、随時看護師に報告、相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家族の協力を得ながら、ご本人の希望に沿ったものが提供出来るよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	可能な限りは家族の協力のもと希望を叶えるよう支援していきたい。今年度はコロナ禍であり外出の機会を設けていない	感染症問題があることで、利用者の外出が困難になっているが、利用者の状況をみながらホームの外に出る等の対応が行われている。例年は、ホーム近隣にある喫茶店に出かけたり、季節等に合わせた外出行事が行われている。	利用者の外出が困難になっている状況が続いていることもあるため、感染症問題が落ち着いた際には、利用者の外出の機会が再開されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	認知症の進行もあり、管理は施設で行っている 外出の際等の支払いは可能な限り支払いをお願いしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	随時対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	気持ちよく過ごして頂くために常に清潔を心掛けている 又、季節・行事等、雰囲気作りに努めている	ホームのリビングは広めの空間がつけられてあり、ソファを配置する等、利用者が日中の時間をゆったりと過ごすことができる生活空間がつけられている。また、リビング内の壁面には利用者の作品等の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様同士の席も常に気を配り楽しく過ごして頂けるよう支援している ご本人の希望する場所で過ごせるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	安心して安全で居心地良くを心がけている ご本人の希望をお聞きしながら 家具・ベッドの位置等の配置はしているがご本人の体力に合わせての居心地よさも心掛けている	居室には、利用者や家族の意向等に合わせた家具類や好みの物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、備え付けとして収納タンスが設置されていることで、持ち込みの少ない方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全に移動出来る福祉用具の提供を行い環境の整備を行っている		